

No. 2

場 所	東中野三丁目(鉄道用地内)	樹 木 医		診 断 日	2025 年 11 月 6 日
樹 木 番 号	38	樹高(H)=9.0m	幹周(C)=231 cm	枝張(W)=8.5m	
樹種名	サクラ	植 栽 形 態	☐ 単独樹 ☐ 植栽帯 ☐ 緑地内 ☒ その他		支 柱 ☐ 良好 ☒ なし ☐ 破損

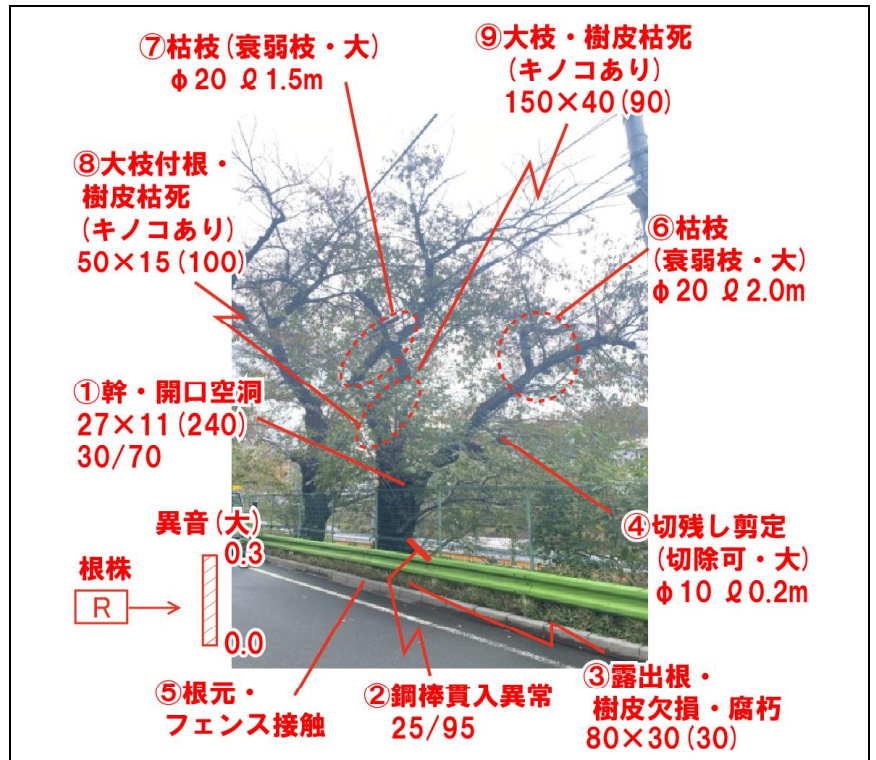
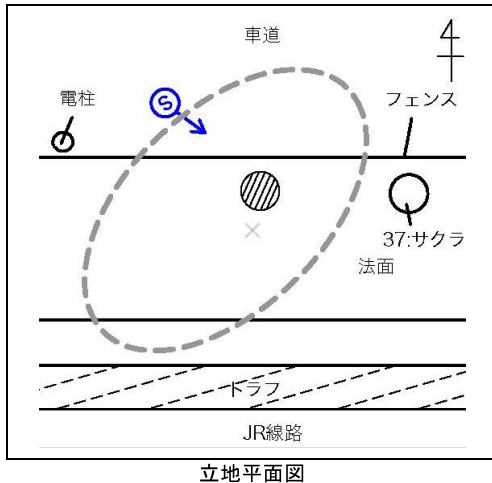
活 力 診 断	樹勢	枝の伸長量、梢端の枯損、枝の枯損、葉の密度、葉の大きさ、葉色等		良 ← ☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4 ☐ 5 → 不良			
	樹形	主幹・骨格となる大枝・枝などの枯損及び欠損、枝の密度と配置等		☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5			
所 見	樹勢：樹冠部が衰退している。 樹形：概ね問題なし。						
	活力判定	☐ 健全か健全に近い ☒ 注意すべき被害が見られる ☐ 著しい被害が見られる ☐ 不健全					
外 観 診 断	部 位 診 断	診断内容 \ 部位		根元	幹	骨格となる大枝	
		樹皮枯死・欠損・腐朽 (周囲長比率)		☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☐ なし ☐ 1/3 未満 ☒ 1/3 以上	
		芯に達していない開口空洞 (周囲長比率)		☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☐ なし ☒ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	
		芯に達した開口空洞 (周囲長比率)		☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	☒ なし ☐ 1/3 未満 ☐ 1/3 以上	
		上記3項目のうち 最大被害部の周囲長比率		被害部幅 / 被害部周囲長 = 周囲長比率 %	被害部幅 / 被害部周囲長 = 周囲長比率 11 / 240 = 4.6%	枯枝 ☐ なし ☒ あり(φ20cm 22.0m) スガカット ☐ なし ☒ あり(切除可)	
		キノコ(子実体)		☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
		木槌打診(異常音)		☐ なし ☒ あり(G.L.0-0.2m 大)	☐ なし ☒ あり(G.L.0.2-0.3m 大)	☒ なし ☐ あり()	
		分岐部・付根の異常		☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☐ なし ☒ あり(樹皮枯死)	
		胴枯れなどの病害		☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
		虫穴・虫フン、ヤニ		☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	☒ なし ☐ あり()	
		根元の揺らぎ		☒ なし ☐ あり()	建築限界越え 車道側	建築限界越え 歩道側	
		鋼棒貫入異常		☐ なし ☒ あり(25/95cm)	幹 ☒ なし ☐ あり	幹 ☒ なし ☐ あり	
		巻き根		☐ なし ☐ あり()	()	()	
		ルートカラー		☒ 見える ☐ 見えない()	()	()	
		露出根被害		☐ なし ☒ あり(樹皮欠損・腐朽)	枝 ☒ なし ☐ あり	枝 ☒ なし ☐ あり	
		不自然な傾斜		☒ なし ☐ あり()	()	()	
		所 見		幹の開口空洞あり。 鋼棒貫入異常あり。同様の被害多数あり。 露出根の樹皮欠損・腐朽あり。同様の被害多数あり。 切残し剪定(切除可・大)あり。 根元のフェンス接触あり。 枯枝(衰弱枝・大)あり。 大枝付根の樹皮枯死(キノコあり)あり。 大枝の樹皮枯死(キノコあり)あり。 木槌打診音異常(G.L.0-0.3m)あり。 要機器診断(根株)。			
		部 位 判 定	判定・処置 \ 部位		根元	幹	骨格となる大枝
			健全か健全に近い		☐	☐	☐
			注意すべき被害が見られる		☐	☐	☐
著しい被害が見られる			☒	☒	☒		
不健全			☐	☐	☐		
処 置	剪定が必要		☐	☐	☒		
	機器診断が必要		☒	☐	☐		
外観診断判定	☐ A：健全か健全に近い ☐ B1：注意すべき被害が見られる ☒ B2：著しい被害が見られる ☐ C：不健全						
判定理由	落下時の危険性が大きい枯枝(衰弱枝)あり。切残し剪定(切除可・大)あり。根元から幹にかけて木槌打診音異常(大)あり。						

機器診断	測定データ 1	部位(根株)	腐朽空洞率: 57.4 %	t/R 率 ① 0.188	② 0.308	③ 0.175	④ 0.293
	測定データ 2	部位()	腐朽空洞率: %	t/R 率 ①	②	③	④
	所見	〈根株診断〉 根株に非常に大きな腐朽空洞が認められる。特に①③④方向では、腐朽空洞化の進行により、健全材が薄くなっている。					

総合判定	☐ A：健全か健全に近い ☐ B1：注意すべき被害が見られる ☐ B2：著しい被害が見られる ☒ C：不健全
判定理由	機器診断の結果、根株に非常に大きな腐朽空洞が確認された。特に①③④方向では、腐朽空洞化の進行により、健全材が薄くなっている。 現状で倒伏の危険性が高いため、伐採を検討する必要がある。残置する場合には風圧軽減のため概ね 1/2 程度まで樹高を低減し、定期的な診断により被害の進行を定期的に観察する必要がある。

No. 2

処 置 内 容	必要性	☐ なし	☒ あり	緊急性	☒ なし	☐ あり
	☐ 要観察(長期周期)		☐ 要観察(短期周期)			
	☐ 剪定(枯枝	☐ 腐朽枝等	☐ 支障枝	☐ 風圧軽減	☐ スタブカット	☐ 巻き根
	☐ 樹体保護()		☐ 植栽基盤の改善()			
	☐ 根上がり()		☐ 病虫害防除()			
	☒ 更新()		☐ その他()			
摘	現状で倒伏の危険性が高いため、伐採を検討する必要がある。残置する場合には風圧軽減のため概ね 1/2 程度まで樹高を低減し、定期的な診断により被害の進行を定期的に観察する必要がある。					



①幹の開口空洞



②鋼棒貫入異常



③露出根の樹皮欠損・腐朽

その他特記事項

次回診断	☐ フォローアップ診断(☐ 要機器診断 測定部位:) ☐ 外観診断	
次回診断時期	☐ 1年後 ☐ 2年後 ☐ 3年後 (年度)	
位置座標(WGS84)	緯度 35.706263	経度 139.679797



④切残し剪定(切除可)



⑤根元のフェンス接触



⑥枯枝(衰弱枝)



⑦枯枝(衰弱枝)



⑧大枝付根の樹皮枯死



⑨大枝の樹皮枯死